令和４年度　第４６回卒業証書授与式

令和５年３月１５日（水）

校庭の桜のつぼみが膨らみ、春の訪れを感じるこの佳き日に、上尾市市民生活部長　様をはじめご来賓の皆さまのご臨席と、保護者の皆さまのご列席のもと、上尾市立大石南中学校第４６回卒業証書授与式を挙行できますことに、心から感謝を申し上げます。

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。先ほど、一人一人に卒業証書を手渡しました。今、手にしている卒業証書は、中学校三年間の教育課程を修了したことの証です。皆さんの努力はもちろんですが、支えてくださった保護者や地域の方の思いや願いが詰まったものでもあります。どうか、その重みを忘れないでください。

ちょうど３年前の３月、新型コロナウイルス感染防止のため、全国の学校が臨時休校となりました。皆さんの小学校の卒業式も、中学校の入学式も臨時休校中に行いました。入学式は体育館では実施できず、それぞれの教室に入ってもらい、式は放送で行いました。その後も休校は続き、中学１年生の授業が始まったのは６月でした。それから今日に至るまで、多くの行事が縮小や中止を余儀なくされました。中学校生活のほとんどがコロナ禍にあり、制約がある中での学校生活でした。「例年どおり」が通用しない中でしたが、皆さんは、知恵を出し、工夫をしながら、一つ一つやり遂げてくれました。

冬季体験学習が延期となり、代替行事として行った大滝げんきプラザでの宿泊体験学習では、所長さんから「トリプルＡ」の評価を頂きました。そして３年生での修学旅行。こちらも、学びの場としての意識が高い３日間でした。法隆寺の展示を見ながら「もっと時間が欲しい」というつぶやきが聞こえたことを覚えています。仲間との京都・奈良を十分に楽しみながらも、常に学ぶ姿勢を忘れない、文字通り「修学」旅行となっていました。体育祭や合唱祭でも、最上級生として見事な活躍を見せてくれました。体育祭は両クラスの勝敗が最後までわからない接戦でした。大縄を頑張る姿や、合唱に一生懸命取り組む様子が昨日のことのように思い出されます。

大石南中には、今から五年前に皆さんの先輩が作った学校生活のきまり「石南 LIFE」があります。これを柱として「自律」をキーワードにして様々な活動に取り組んできました。皆さんは、この「石南 LIFE」を生徒の手によって改訂

することで、「自分たちで考え、主体的に行動する」大石南中学校を、また一歩前進させてくれました。

今日は、卒業にあたり、皆さんに渋澤栄一が大切にした「忠恕」という言葉を贈ります。渋澤栄一は来年から切り替わる一万円札の肖像として選ばれています。名前を知っている人も多いでしょう。埼玉県の偉人の一人にあげられます。日本の近代経済社会の基礎を築き、実業界だけでなく、社会公共事業にも多くの業績を残した人です。その渋澤栄一が生涯大切にしたのが、「忠恕」すなわち「真心と思いやり」でした。皆さんはこれから、自分で決めたそれぞれの道を歩いていきます。たくさんの新しい出会いがあるはずです。時には、大きな壁に突き当たることもあるかもしれません。しかし、どんなときにも「真心と思いやり」をもって人に接してほしいと思います。そして、希望をもって、勇気を持って、自信を持って新しい世界に一歩を踏み出してください。

最後になりましたが、保護者の皆様、お子さまのご卒業、おめでとうございます。心からお祝いを申し上げます。お子さまは本日、義務教育９カ年を修了しました。感慨もひとしおと拝察いたします。この３年間、大石南中学校では、教職員一丸となり、お子さまの成長を見守り、精一杯教育活動に努めて参りました。本校に、そして私たち職員にお寄せくださいましたご理解とご協力に改めて感謝を申し上げます。

卒業生の皆さんが、それぞれ進む道に幸多かれと祈り、式辞といたします。

令和５年３月１５日

上尾市立大石南中学校　校長　大澤　聡